

平成 5年 5月13日

〒143

東京都大田区大森中1-21-2

アンシャンテ スヤマ2F

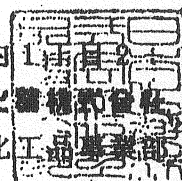
有限会社スパーク

畑 中 俊 幸 殿

東京都千代田区丸の内1-1-1

日本化学工業株式会社

化工部事業部



危険性評価試験の試験結果報告書

御依頼いただきました試験の結果を下記の通りご報告いたします。

記

I. 試験試料

試料 : ディフュージョンDF50 生成スモーク

II. 試験項目

: 生成スモークへの着火試験

III. 実施年月日

平成 5年 5月13日

IV. 実施場所

山口県厚狭郡山陽町大字郡2300番地
株式会社カヤテック厚狭事業所

III. 試験立合者

有限会社スパーク

畑 中 俊 幸 殿

IV. 試験従事者

株式会社カヤテック厚狭事業所

金子 良昭, 相本 博, 勝原 幾生.

V. 試験の目的

ディフュージョンDF50を使用して舞台その他に生成させるスモークが各種の火源によって着火・燃焼するか否かを確認することを目的とする。

VI. 点火源の種類

点火源として下記の物を使用した。

- ①：ブンゼンバーナー（ブタンガス使用したもの）
- ②：白灯油の燃焼炎（綿織維含浸灯油の燃焼）
- ③：ニクロム線（1000℃に白熱したもの）

VII. 試験設備の概要

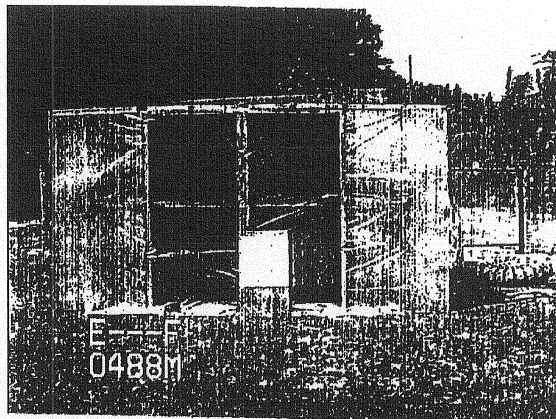
添付図および写真1に示す。

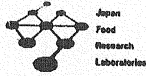
V. 試験結果

着火源	点火源の位置（吹き出し口からの距離）			
	0.5 m	1 m	3 m	
ブンゼンバーナー	着火しない	着火しない	着火しない	
灯油	着火しない	着火しない	着火しない	
ニクロム線	着火しない	着火しない	着火しない	

それぞれの結果に対応する写真を以下に添付した。

写真1：試験設備





第 46040223-001 号
平成 05 年 04 月 15 日

分析試験成績書(副)

依頼者 有限会社 スパーク
検体名 デイフュージョンフルード
付記事項 *****

平成 05 年 04 月 02 日当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

明認人

日本食品分析センター

東京本部 〒151 東京都渋谷区円通寺 4-1-1 木町52番1号
大阪支所 〒564 大阪府吹田区豊中 3-1-1 3番1号
名古屋支所 〒460 名古屋市中区栄 1-1-1 目5番13号
九州支所 〒812 福岡市博多区下基町 1-1-1 1番12号
多摩研究所 〒206 東京都多摩市永山 1-1-1 目11番10号

分析試験結果

分析試験項目	結果	検出限界	注	分析方法
粘度	60.3cSt		1	
比重	d ₄ ²⁰ 0.8593			
引火点	202℃		2	ピクメ-法
鉄	検出せず	1ppm		C.O.C. 法
ヒ素(As ₂ O ₃ として)	検出せず	0.1ppm		原子吸光度法
鉛	検出せず	0.05ppm		DDTC-Ag吸光度法
ホトミダ	検出せず	0.01ppm		原子吸光度法
ヒソ	検出せず	0.05ppm		蛍光光度法

注1. 測定条件：粘度計、カペロー粘度計；温度、25℃

注2. 危険物の試験及び性状に関する省令（平成元年自治省令第1号）によった。

以上

第46040223号-別添

受付番号 46040223 有限会社 スパーク

検体名 デイフュージョンフルード

試験日 1993年 4月13日

試験条件 温度(25℃) 湿度(63%) 気圧(765mmHg)

試験項目 引火点

試験方法 C. O. C. 法

試験結果

1回目 202℃	2回目 202℃	平均値 202℃
----------	----------	----------

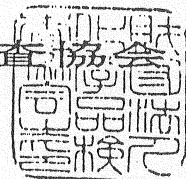


試験報告書

No. 2 A - 0932

平成 4年 6月 2日

財団法人 化学品検査協会



1. 依頼者 シアターエンジニアリング 殿
2. 受付年月日 平成 4年 4月20日
3. 試料 ディフュージョン液 1点
4. 試験項目 成分分析及び引火点測定
5. 試験方法
赤外分光分析 装置 IR-810 (日本分光工業製)
ガスクロマトグラフ分析 装置 GC-8A (島津製作所製)
水分 (カール・フィッシャー法)
装置 デジタル微量水分測定装置 CA-02 (三菱化成工業製)
引火点 JIS K2265 クリーブランド開放式による
6. 試験結果
主成分 パラフィン系鉱物油
(水分 0.005%以下)
引火点 203℃

- 以上 -

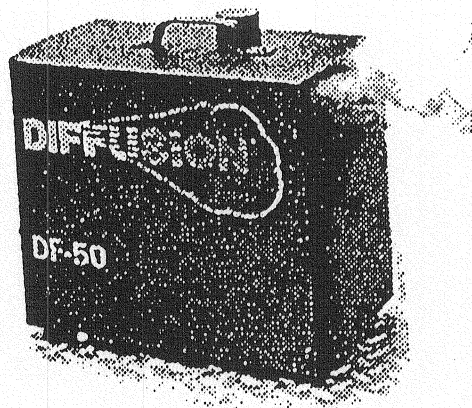
(受付No. 21-0262)

〒131 東京都墨田区東向島4-1-1 電話3614-1101 (代)

この試験報告書を転載するときは、事前に当協会の承認を受けてください。

D I F F U S I O N F O G G E R D F - 5 0

(取扱説明書)



REEL EFX

DF-50

取扱説明書

- ☆ DF-50 を運送する時には、タンクは空にして、上向で運送します。
- ☆ 使用する前には、線の印まで液を入れます。ディップスティックで量を確認します。
- ☆ 機械の前面パネルでボルトの確認をします。正しいサイズのケーブルを使用してください。
- ☆ メスコネクターの連結を確認して、電源をONにします。
- ☆ ブレイカーが落ちた場合には、電源をOFFにして、RESETボタンを押してから、又電源を入れ直します。
- ☆ 機械をいつも水平にして、正しく使用してください。
- ☆ タンクは、2リットルまで入ります。液を入れ過ぎない様ご注意ください。

液の注入方法

- ☆ 液は上面の開け口から入れます。入れ過ぎないように注意してください。
- ☆ 液は2リットル量まで入ります。
- ☆ キャップに付いているディップスティックで量を確認して、キャップをしっかりとめます。
- ☆ もし液を入れ過ぎた場合は、機械を斜めにして、余分な液を簡単に出すことができます。

注意： DF-50を使用する際はREEL EFXの“ディフュージョン液”を使用してください。他の液や水、油、薬品等を混入しないでください。

メンテナンス、サービスが必要になった時は、必ず代理店にご連絡ください。

< 使用法 >

本体側面にチェック用の窓がありますので液が入っていることを確認してください。
液は最高で約2リットル入ります。

電源を入れます。赤ランプが点灯し、運転を始めます。
すぐに前方部からスモークを放出します。

好みのスモークの状態に達しましたら電源を切っても、空調がなく、密閉された場所でしたらその状態が2～3時間は持続します。
空調のある場合は空調の加減によって運転を続ける必要があります。

< 運搬についての注意 >

運搬の際は、必ずマシン内の液を空にしてください。
長距離輸送の場合、約1時間の空焚きをしてマシン内の液を空にしてから運んでください。

< アフターサービス >

万一故障したり調子が悪いとき、又は不明な箇所がありましたら購入先または下記に連絡ください。

株式会社シアターエンジニアリング
〒156 東京都世田谷区経堂5-28-20
TEL 03-3706-5611
FAX 03-3706-6766

仕様	D I F F U S I O N F O G G E R D F - 5 0
電源	100V 50Hz / 60Hz 500W
液消費量	1ℓ / 約16時間 2ℓ (満タン) / 約32時間
重量	23Kg
サイズ	H30cm W20cm D35cm

新しいポータブルタイプ DIFFUSION

DF-50 DIFFUSION FOGGER

照明効果

広光線	DIFFUSION	幻影	光線
霧	白熱	雲	大気効果
スモーク	後光	霞	蒸気様霞

DF-50は、軽く、使いやすく、DIFFUSION液は、安全、無害でオゾンを破壊する恐れもありません。世界中のプロにDF-50 DIFFUSION FOGGERは使用されています。

◎地球に安全

◎長時間残存 (3時間ほど)

◎CAL/OSHAテストの結果で、オゾンを破壊する恐れがないことが証明されています。

◎FDAテストの許可済み

◎子供達やもちろん動物にも安全

◎スプーン大さじ1パイほどの液で60分のフォッグ

DF-50 DIFFUSION FOGGERを使用して照明により、背景をドラマチックな効果を作ることができます。

このたくさんの効果を非常に安全で簡単に作ることができ、DF-50 DIFFUSION FOGGERはやはりプロカメラマン、プロ照明オペレーター、シアターのプロ、バンドメンバーにNO. 1に選ばれました。

D I F F U S I O N F O G G E R

DF-50

- 図面 FIG. 1 : 上面
 FIG. 2 前面
 FIG. 3 後面

- 1 : FAN (ファン)
2 : FAN SCREEN (ファンスクリーン)
3 : COMPRESSOR, MOTOR (モータ付コンプレッサー)
4 : AIR FILTER (空気フィルター)
5 : WARM AIR OUTLET (換気口)
6 : AIR COOLER (空気冷却器)
7 : WATER TRAP (水取り器)
8 : OIL INLET (液入口)
9 : OIL SUMP (液だめ)
10 : NOZZLE (ノズル)
11 : FOGGER HEAD (フォッグヘッド)
12 : MARBLE CHAMBER (フィルター室)
13 : MIST OUTLET (フォッグ出口)
14 : POWER SUPPLY (電源)
15 : CIRCUIT BREAKER (サーキットブレーカー)

電源(14)をONにすると、ファン(1)がまわり、後部からの空気を取り入れ、取り入れられた空気は3方向にわかれ、1方向はモーターを冷やし、もう1方向はエアフィルターに入り、もう1方向の空気はFOGと混ざり合い吹き出されます。

1方向の空気はコンプレッサー(3)のモーターを冷やしコンプレッサー冷却用の空気は換気口(5)から排出されます。もう1方向の空気はエアフィルター(4)に入り、チューブを通してコンプレッサー(3)に送り込まれ、高圧空気となり、チューブを通して、エアクーラー(6)を通り、水取り器(7)に入り、全ての水分を取り除きます。水分を取り除かれた空気はチューブを通り、ノズル(10)に入ります。液だめ(9)から液をノズルに送り込み空気と混ざり合いながら、スプレイ状に吹き出し、フィルター室(12)に入り、ここで細かい粒子となり、フィルター室(12)の出口を出る時、もう1方向の空気と混ざり合い、薄い霧状となり、出口(13)から放出されます。

☆ もし前後口が塞がれていた場合にはコンプレッサー(3)がオーバーヒートして、サーキットブレーカー(15)が働きます。障害物を取り除き、30分程冷やしてからもう一度サーキットブレーカー(15)を入れます。

FIG. 1

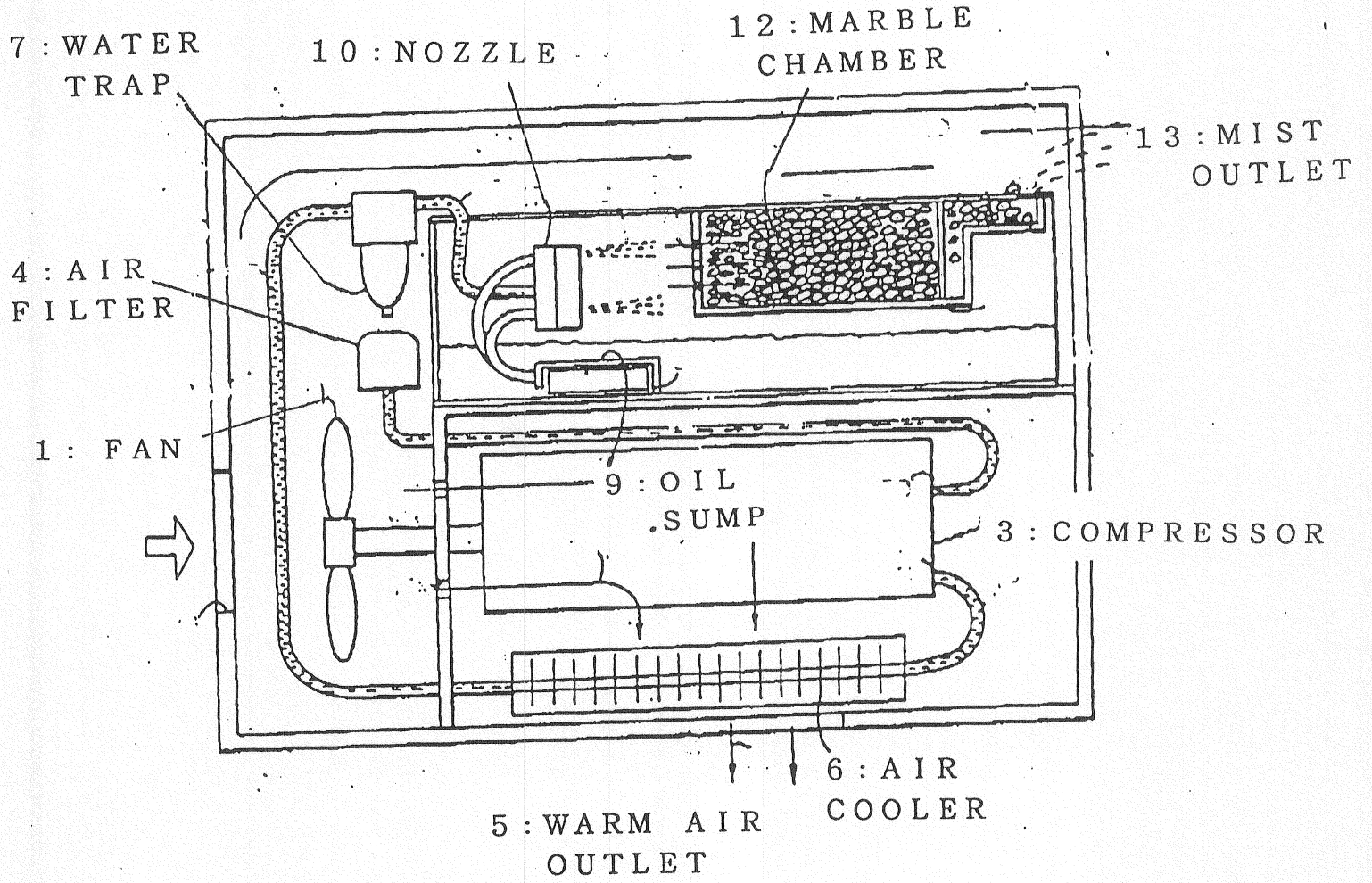


FIG. 2

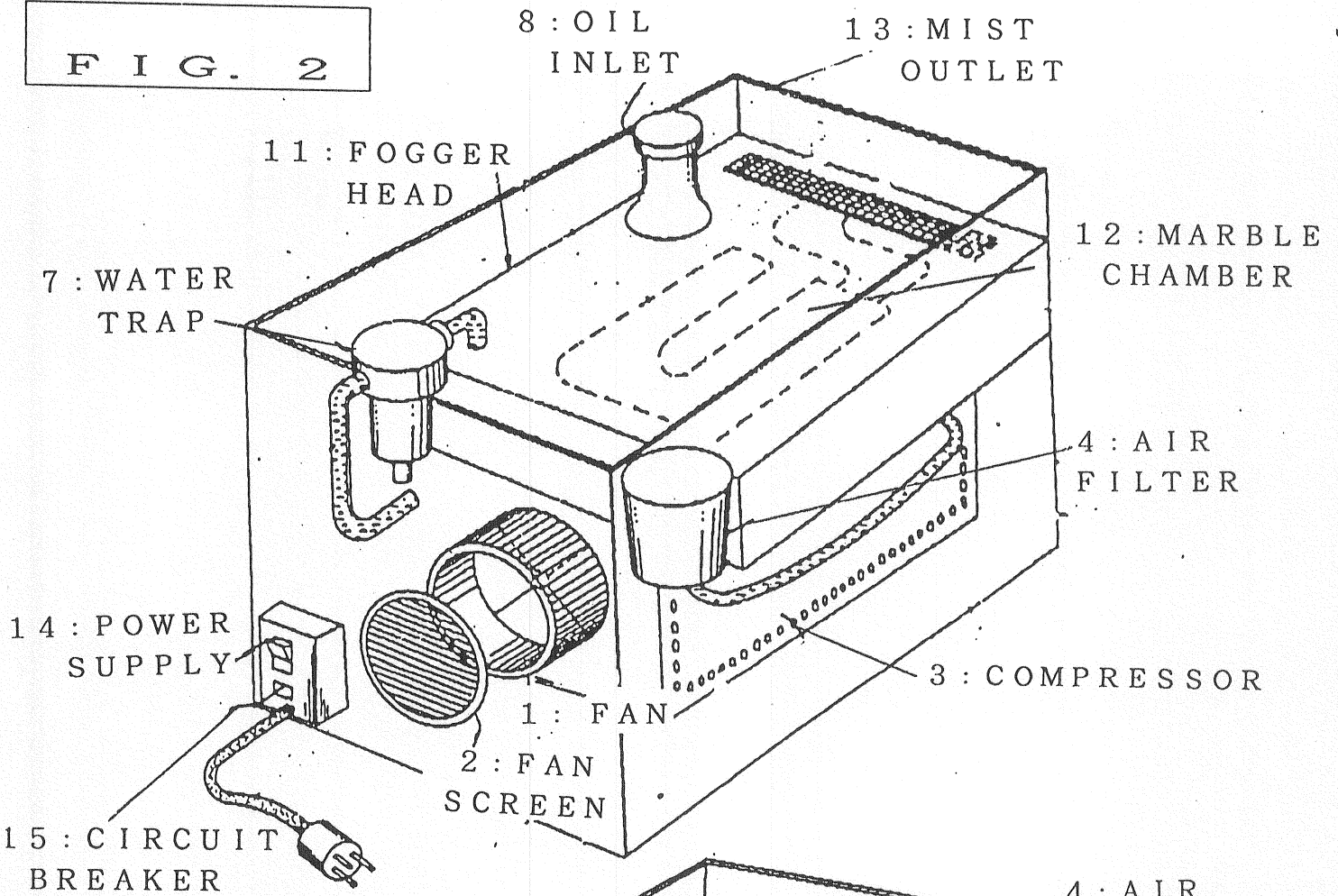


FIG. 3

